

事務事業評価シート

評価対象年度 令和 2 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	仙北市学校教育バックアップ事業費				
担当課係名	北浦教育文化研究所		作成者	伊藤 昭光	
第2次仙北市総合計画での位置づけ	施策の大綱	個性豊かな心を育むまち			
	基本計画	教育文化			
	主要施策	学校教育の充実			
予算費目	一般	会計	10款	教育費	1項 教育総務費
				5目	北浦教育文化研究所費
事業期間	平成 26 年度 ~ 令和 年度		新規/継続の区分		継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等	「仙北市学校教育バックアップ事業」実施要項				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市民及び近隣市町の居住者、市内小・中学校の児童生徒
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	<ul style="list-style-type: none"> 学校における教育活動の円滑な実施。 仙北市民等の学校教育等への理解の促進、社会貢献意欲の醸成。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	読み語り、作物栽培指導、図書整理、総合学習外部講師など、児童生徒の学びを深めるよう教育活動の支援を行う。

【事務事業の推移】

		項 目	単 位	2年度実績		
効果	活動指標	ボランティアスタッフ数	目標	人	64	
			実績	人	64	
			達成度		100.0%	
	成果指標	学校での支援回数	目標	回	600	
			実績	回	591	
			達成度		98.5%	
投下コスト	項 目		総事業費	2年度決算額(千円)		
	事業費(人件費を除く)(A)			308		
	人 件 費 (B)		—	1,219		
		職 員 数	—	0.15		
		職員平均人件費	—	8,128		
	(A)+(B) 投下コスト		—	1,527		
	財源内訳	国庫支出金			0	
		県支出金			0	
		地方債			0	
		その他			0	
		一般財源			1,527	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	23,859		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	61		

【事務事業の今までの成果】

- ・学校における学びが深くなり、様々な見方や考え方ができるようになった。
- ・地域の先生が来校してくださるのを心待ちにしており、学習意欲が高まった。
- ・地域住民と児童生徒のつながりができ、出会った際にあいさつや会話を交わすなど地域が活性化した。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	「開かれた教育課程の実施」が国から求められており、仙北市でも地域学校協働活動の重要性が地域住民から認識され始めている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちとの活動がとても楽しく、生きがいにもなっている。 ・子どもたちの笑顔から元気をもらうことができる。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	学校教育に関わってくださった地域住民の方にとって、自己有用感を感じられる活動になっている。また、子どもたちにとっては、様々な見方や考え方を学べるよい機会となっている。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	多くの地域の方々に学校に来ていただき、子どもたちの学びを深めるための教育活動の支援をしていただいた。地域住民にとっては自己有用感を感じられる活動となっている。今後も地域と一体となった活動を進めていきたい。

